

『精神力動的心理臨床の今—事例検討とセミナー』

＜長野心理臨床研究会2019—未来への記憶—＞

ご 案 内

向春の候、皆様におかれましては ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、「臨床」の原点は、目の前のクライアントに向き合うセラピストとの生きた関係にあります。そこには、学派を問わず精神力動的な生きた関係性が横たわっています。社会がどのように変容しようとも、臨床現場の中核にあるところの流れを見失わず実践することが望まれます。

そこで、現在臨床現場の第一線で活躍される心理臨床家をお招きして、『精神力動的心理臨床の今2019—未来への記憶—』を企画いたしました。話題提供者が各テーマに沿って語り、精神力動的観点から対話・討論を深めます。また、経験知と臨床知の向上を願って、事例検討をすることで体験的理解を深めます。

つきましては、様々な臨床領域で奮闘される方々や内的世界も尊重したい方々のご参加を心よりお待ちしております。

長野心理臨床研究会 望月秋一

記

主 催： 長野心理臨床研究会 共 催： イマージ事例検討会

会 期： 2019年5月から2020年3月まで、合計7回。5月、6月、11月、12月、2月の第3土曜15時から18時半。第3回は、7月第4土曜15時から18時まで、後に講師と懇親会。第7回は、2020年3月20日金曜15時から18時半。

会 場： 長野心理臨床センター（イマージ：長野駅より徒歩数分） 第3回は別会場

概 要：

セッション1 セミナー&ダイアログ 15:00～16:15

話題提供者それぞれに、テーマに沿った心理臨床の現在を報告していただきます。精神力動的観点（主に対象関係論、間主観性理論）から対話・検討し理解を深めます。→詳細は日程及び内容にて記載。

セッション2 事例検討 16:30～18:30

参加者が臨床素材を提供し、精神力動的観点からより深くクライアントやセラピストとの関係を理解することを通して、臨床力を高める。

コーディネーター： 望月秋一 < 現代クライン学派の衣笠隆幸先生に師事、後にコフォート学派の先駆者・故丸田俊彦先生の上級グループ・スーパービジョンを6年間受ける。

TIFI国際フォーカシング・インスティテュート認定コーディネーター&サイコセラピスト >

参加費： 21000円（分納あり）

定 員： 15名（対象関係論、間主観性理論などの現代精神力動的心理臨床との対話に関心のある方）

申込締切： 2019年3月31日

申込・連絡先： 長野心理臨床研究会事務局

cpsgnagano@gmail.com 行田太樹

その他：

* 本セミナーは、日本臨床心理士資格認定協会継続研修会のポイント取得を申請予定しております。

【 セッション1：テーマ及び内容 】 セミナー&ダイアログ 15:00 から 16:15

No	日時	話題提供者 (敬称略)	討論者	テーマ & 概要
1	5/18(土)	大川原憲司 長野赤十字 病院(精神科)	対象関係論 的観点から (望月秋一)	<p>「精神医療における心理臨床の実際」</p> <p>精神医療における心理臨床は、この国の医療制度の変遷や疾患の診断基準の変遷と無関係ではあり得ません。日進月歩の医療の進歩や社会状況の変化に対応することは重要だが、自分の臨床は日々出会う患者さんとのかけがえのない経験の積み重ねであり、それらによって支えられています。患者さんとの体験を紹介しながら、精神医療における心理臨床の実際についてお話しします。</p>
2	6/15(土)	高橋優子 県スクールカウンセラー	間主観的観点から (望月秋一)	<p>「スクールカウンセリングの最近の動きとこれから」</p> <p>近年、学校では「チーム学校」の考えに基づき、多様な専門性を持つ職員が、連携、協働しながら、それぞれの専門性を発揮することが求められています。日々の活動の中で求められることは、個別カウンセリングやアセスメントだけでなく、医療や他機関との連携や、学級集団への働きかけ等々、多岐にわたります。この機会に、改めて心理士の専門性について、考えてみたいと思います。</p>
3	7/27(土)	<p>『精神力動的視点にたつ心理療法ケーススーパービジョン』</p> <p>【セッション1-2の全時間(3時間)：本格的な精神分析家スーパーバイザー(交渉中)による2臨床素材のスーパービジョン】</p> <p>日本精神分析学会、及び日本臨床心理士会の重鎮、精神分析家スーパーバイザーをお招きし、心理療法の真髄に振れる機会となる事例検討を行います。(日本臨床心理士会の初めから河合隼雄先生のブレインとして、日本心理臨床の骨格を支えてこられた精神分析家を予定しております)</p>		
4	11/16(土)	北澤早苗 長野市民病院 小児科	脱 錯 覚 と holding の観 点から (望月秋一)	<p>『小児科における心理臨床』</p> <p>これまでの小児科臨床を振り返りながら、子どもたちを取り巻く環境や対応の変化についてお話ししたい。</p> <p>また、発達特性と環境の相互作用によって生じる困難感に苦しむ子どもたち、あるいは虐待やいじめなどのトラウマ体験を抱えながら生きる子どもたちを、医療機関ではどのように支援しているかについてもお伝えしたいです。</p> <p>北山修先生や丸田俊彦先生のSVを振り返り、そこで教えて頂いたこと、深く印象に残っていることにも触れたいと思います。</p>

5	12/21(土)	行田太樹 信州まつもと 心理オフィス	外的対象関 係と内的対 象関係の構 造論的観点 から (望月秋一)	<p>『心の声を聴く事と精神力動的視点』</p> <p>『クライアントの心の声を聴き、その人の役に立つにはどうしたらよいのか』昨年より私設心理臨床の世界に飛び込み、未熟ながらもそのことを考えてきたと思っています。安定したカウンセリングの枠組みを提供し難い現代は、クライアントの心の声や本当の姿を理解しにくくさせる危険性を孕んでいます。私は、精神分析的視点を持つことによってこのことを補ってきたつもりです。</p> <p>今回は、治療構造論的な考え方や治療者の態度を中心に話しさせていただき、皆様と対話・討論が出来たらと思っています。尚、私設心理相談だけでなく教育や医療領域での経験や具体例も踏まえながら、お話しいたします。</p>
6	2/15(土)	山崎 勇 (信州大学カ ウンセラー)	間主観的感 性との関係 (望月秋一)	<p>『学生相談における治療的枠組み』</p> <p>大学の学生相談では学生との個別面接、教員・家族へのコンサルテーションに加え、近年では障害学生に対する合理的配慮、自殺防止などにも取り組んでいます。そのため、個別面接の治療的枠組みにとどまらず環境の調整や学生への講義など、より広い枠組みでの活動が求められています。</p> <p>学生相談で体験した事例やその他の活動を紹介しつつ、より広い枠組みでの心理職の役割について検討する機会になればと考えています。</p>
7	3/20(金)	深澤桂樹 佐久総合病院	精神力動的 consultation の観点から (望月秋一)	<p>『総合病院における心理臨床の実践とこれから』</p> <p>総合病院では、精神神経科・心療内科に限らずさまざまな科からの依頼があり、医師、看護師をはじめ多くの他職種に向けてコンサルテーション・リエゾン活動を行う必要があります。この際に、話題提供者は精神力動的視点に基づき、特に患者－医療従事者の関係性に注目してアセスメントし、その共有を行っています。</p> <p>当日は事例を用いて、その実践を紹介したいと思います。</p>